

草の根パートナー型

平成21年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	メキシコ
2. 事業名	メキシコ国チアパス州先住民関連3団体に対するコーヒーの加工・焙煎およびコーヒーショップの開店・経営に関する技術協力事業
3. 事業の背景と必要性	<p>慶應義塾大学山本純一研究室を母体とするKeio FTP (Fair Trade Project) が、2006年7月から2008年3月にかけて実施した、草の根技術協力事業（支援型）を通じて、焙煎技術の向上、焙煎設備の整備等に取り組んだ結果、受益者であるマヤビニック生産者協同組合（以下、MV）の収支は赤字から黒字を達成するに至ったものの、対象地域の識字率や教育環境は依然、他行政区と比較しても低い。先住民にとって、コーヒーはほとんど唯一ともいえる商品作物であり、平均的な農民一家族は、1日2ドル以下の収入での生活を余儀なくされている。</p> <p>生産者組合の発展に大きく影響する次世代への教育は大変重要であり、組合もその必要性を認識しているが、十分な教育が受けられる環境が整っていない。州政府に行政の役割を果たす資金的余力がない中では、地域住民自らが教育環境を整備していく必要がある。こうした理由で、組合が主となって行政サービスを補完すべく、新しい方法（特に収益性の高いコーヒーショップの運営）で収益を拡大することを組合自身が強く望んでいる。</p>
4. 事業の目的	焙煎豆の販売、コーヒーショップの運営により安定的かつ高い収益を得る機会が創出される。
5. 対象地域	メキシコ国 チアパス州 サンクリストバル市、チエナロー区、チロン区、アンヘル・アルビーノ・コルソ地区
6. 受益者層	MVの組合員 約390世帯（約2,340人）、バツィルマヤ小規模有限責任会社（BM）の組合員 100世帯（約600人）、チアパス州シエラマドレ山脈エコ農民協同組合（CM）の組合員335世帯（約2,010人）
7. 活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組合員が、消費者が求めるレベルの焙煎技術を習得する。 2. 生産者の果肉除去・乾燥技術ならびに生豆の品質が向上する。 3. コーヒーショップにおいてメニューとしてカップ提供できるレベルの抽出技術を習得する。 4. 組合員が、コーヒーの香り、酸味、甘味、苦味、コクや欠点となる異臭・異味の有無など、味の要素を判別できるようになる。 5. 消費者を満足させる商品展開を考案できるようになる。 6. 店舗運営に関する基本的な知識を習得する。
8. 実施期間	2010年4月～2013年3月（3年間）
9. 事業費	41,670千円（予定）
10. 事業の実施体制	MV、BM、CMの3団体を現地カウンターパートとして事業を実施する。特に、MVの顧問である、ルイス・アルバレスを当事業の現地調整員としてモニタリングを行う。日本人のプロジェクトマネージャーが事業の責任を持ち、また派遣ベースのジェネラルマネージャーが総監督を務める。KeioFTPのメンバーである専門家を効果的に派遣し、技術支援を行う。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	慶應義塾大学 山本純一研究室
2. 活動内容	南北問題、開発問題、ラテンアメリカを研究するほか、スペイン語教育等を行う。96年以降、山本がメキシコでのフィールドワークを通じて、特に先住民の窮状を知るようになった結果、参加する学生も、国際協力等の実践活動にも大きな関心を抱くようになる。KeioFTPは、山本研究室が管理・運営する最大のプロジェクトである。